

第8章 認知症

今回の調査では認知症の有無が調査された。認知症の有無は新規導入患者の導入時病態のひとつとして2006年と2007年に初めて調査された。透析患者全体を対象に調査されたのは2009年と2010年の兩年のみであり、今回は8年ぶりの調査である。

ICD10によれば認知症とは「通常、慢性あるいは進行性の脳疾患によって生じ、記憶、思考、見当識、理解、計算、学習、言語、判断など多数の高次脳機能障害からなる症候群」と定義される¹⁴⁾。認知症を診断するためには、本来は患者本人やその家族に問診を行うことで患者の認知機能障害を評価することが必要である。また認知機能障害評価の際には一般に Mini Mental State Examination (MMSE) や改訂長谷川式簡易知能評価スケール (HDS-R) などの評価尺度が用いられる¹⁵⁾。しかし本調査は調査方法論的にこのような評価手順を経ることが難しい。このため、本調査での認知症有無は、アンケート回答者に以下のような設問文と選択肢を設定するのみで調査された。

「2018年12月末時点における、患者の認知症の有無についてお答え下さい。※認知症専門医による認知症診断が明らかでない場合は、透析中や受診中の状況を中心に主治医のご判断で回答いただければ結構です。」

- A. 認知症なし
- B. 認知症あり
- Z. 不明

1. 透析患者全体の認知症合併割合とその推移

透析患者全体を対象に、認知症有無に回答のあった患者の中で“認知症あり”と回答された患者の割合を“認知症合併割合”として、主な年齢層毎に認知症合併割合を算出した（認知症合併割合 [%] = [“認知症あり”と回答された患者数] ÷ [“認知症あり”と回答された患者数 + “認知症なし”と回答された患者数] × 100）。

主な年齢層毎の認知症合併割合を表3に示す。2018年調査における透析患者全体の合併割合は10.8%、65歳未満1.8%、65～74歳6.8%、そして75歳以上は22.7%であり、65歳以上で認知症合併割合は増大している。

表3 年齢と認知症の有無, 2018

	認知症なし	認知症あり	合計	認知症不明	記載なし	総計	認知症合併割合 (%)
65歳未満	79,339	1,452	80,791	5,858	18,578	105,227	1.8
65歳～	75,884	5,503	81,387	6,133	18,862	106,382	6.8
75歳～	67,932	19,932	87,864	7,287	20,576	115,727	22.7
合計	223,155	26,887	250,042	19,278	58,016	327,336	10.8
不明/記載なし	0	0	0	0	0	0	
総計	223,155	26,887	250,042	19,278	58,016	327,336	10.8

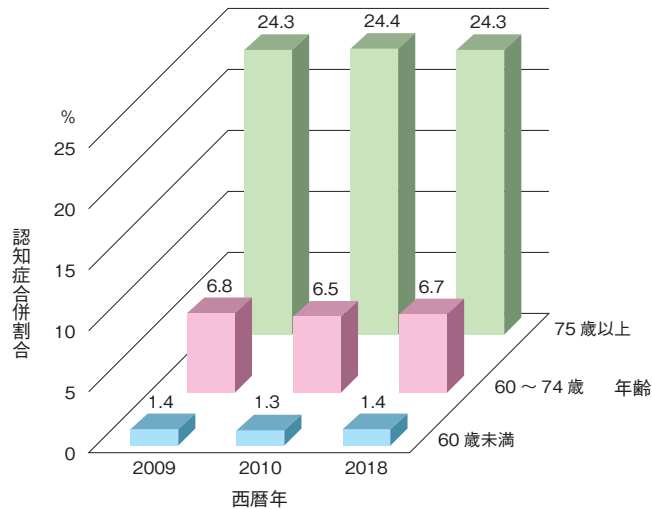


図 46 HD患者週3回透析の認知症合併割合 年齢別推移, 2009, 2010, 2018

2009年, 2010年, そして2018年調査における, 主な年齢層毎の認知症合併割合を図46, 補足表46に示した. 公開資料上の制約のために, 2009年と2010年の集計値は集計対象が「週3回の施設血液透析患者」に限られる. また年齢による層別も“65歳未満”“65～74歳”そして“75歳以上”の3層とせざるを得ない. これらと比較するため, 2018年集計値も対象を「週3回の施設血液透析患者」とし, 年齢層別も2009年と2010年値に合わせた. 図46, 補足表46に示すように, 2018年の認知症合併割合はどの年齢層においても2009年や2010年の値とほぼ同じ値であった.

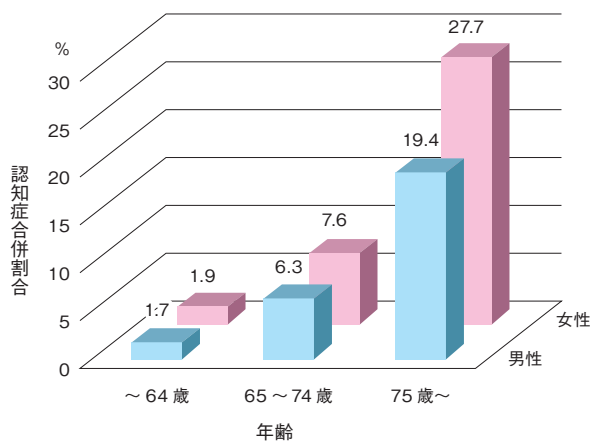


図 47 認知症合併割合 年齢と性別, 2018

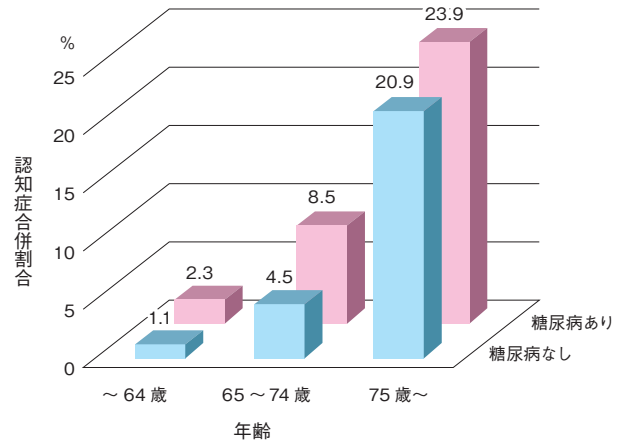


図 48 認知症合併割合 年齢と糖尿病の有無, 2018

2. 性別と認知症合併割合

主な年齢層毎の認知症合併割合を性別に算出した結果を図47, 補足表47に示す. どの年齢層においても女性の認知症合併割合は男性よりも高い. 透析ではない一般の患者において女性の認知症合併率が高いことは既に知られている¹⁶⁾. また2009年と2010年の本調査においても同様の傾向が示されている^{17,18)}.

3. 糖尿病有無と認知症合併割合

糖尿病有無と認知症合併割合との関係を図48, 補足表48に示す. どの年齢層においても糖尿病患者の認知症合併割合は糖尿病のない患者よりも高い. 糖尿病が認知症危険因子であることは既に知られている¹⁹⁾. また2009年と2010年の本調査においても同様の傾向が示されている^{17,18)}.

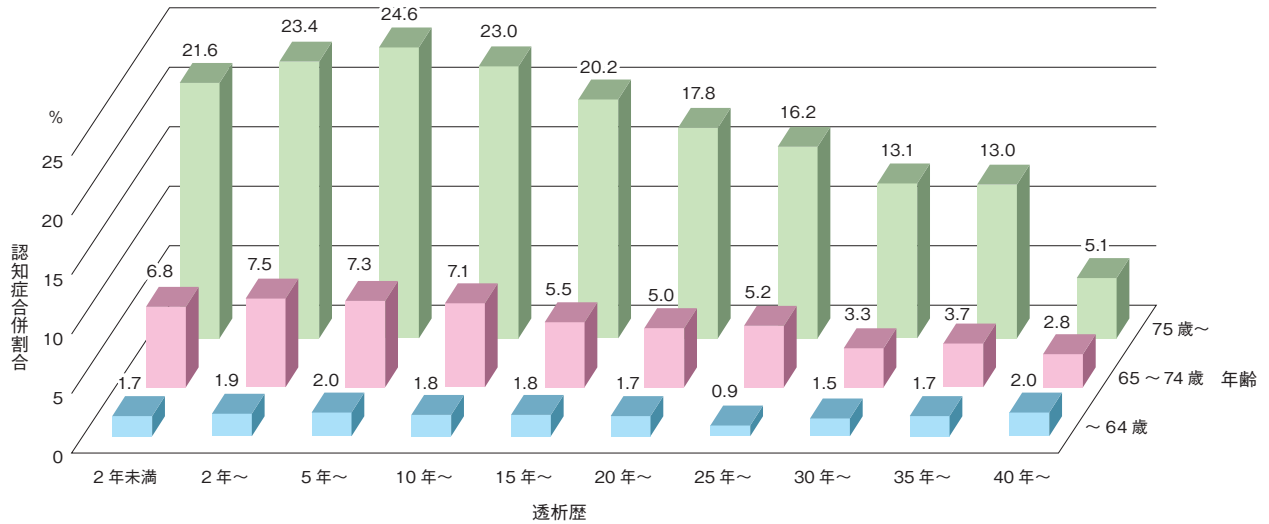


図 49 認知症合併割合 透析歴と年齢, 2018

4. 透析歴と認知症合併割合

透析歴と認知症合併割合との関係を図 49, 補足表 49 に示す. 透析歴 10 年までは透析歴の増大と共に認知症合併割合は増加するが, 透析歴 10 年以上では透析歴の増大と共に認知症合併割合は減少している. 同様の傾向は 2009 年と 2010 年の本調査においても認められている^{17,18)}. 糖尿病ではない血液透析患者では透析歴の増大と共に脳血管障害既往を持たない患者の認知症発症リスクが低下することが報告されている²⁰⁾. 今回の結果はこの報告と矛盾しないと言えるかもしれない.